2021 AUTOBACS SUPER GT Report

MOTEGI GT 300km RACE

第7戦 ツインリンクもてぎ

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路/石浦宏明

◆11 月 6 日 (土) QUALIFY 公式予選結果 15 位



第6戦オートポリスではエンジン交換によるペナルティストップがありながらも、 華々しい追い上げで今季初の2位表彰台を 獲得したTGR TEAM ZENT CERUMO。シ ーズンも残り2戦、2022年に繋げるために も好結果を残したい。迎えた第7戦の舞台 は、栃木県のツインリンクもてぎだ。今季

2回目の開催で、近年 TGR TEAM ZENT CERUMO にとっても比較的相性が良いコースと言える。

オートポリスでは厳しい冷え込みのなかでのレースウイークとなったが、2週間のインターバルで迎えたもてぎは、11月5日(金)の搬入日から比較的気温が高く、上着が不要なほど。予選日となった 11月6日(土)も快晴。午前9時 25分からスタートした公式練習は、絶好のコンディションのなかスタートした。

ZENT CERUMO GR Supra はいつもどおり立川祐路がステアリングを握りコースイン。途中、フルコースイエロー(FCY)キャリブレーションなどを挟みながら、ピットアウト~インを繰り返しつつラップを重ねていく。ただ、ZENT CERUMO GR Supra のフィーリ



























ングはリヤが不安定な印象で、チームはピットインごとにセットアップを調整 しながら改善を進め、22 周をこなすとピットへ。石浦宏明に交代する。

石浦も同様にリヤの不安定さを感じ、一度ピットインすると 9 周の連続走行をこなしピットへ戻り、さらにセットアップを進めていく。石浦は専有走行で再度コースインし、アタックシミュレーションを展開すると、チェッカー間際に 1 分 37 秒 536 というベストタイムをマーク。



8番手で公式練習を締めくくった。ただ、石浦にとって全力でのアタックだったにもかかわらずタイムはいまひとつ伸びていない印象だった。

FIA-F4 第 11 戦の決勝レースをはさむ間、チームは公式練習での問題を解決するべく、さらなるセットアップを ZENT CERUMO GR Supra に施し、午後 2 時 20 分からスタートした公式予選に臨んだ。この時期らしく長い影ができはじめた午後 2 時 53 分からの GT500 クラス Q1 に臨んだのは石浦だ。

ライバルたちに続き、残り 6 分というタイミングでコースインした石浦の ZENT CERUMO GR Supra はタイヤをウォームアップさせていくが、異なるタイヤメーカーの車両が続々とアタックを展開していく。なんとかタイヤを温め、石浦は一発勝負のアタックラップで 1 分 37 秒 344 というタイムをマークするが、タイミングモニターの順位が上がってこない。トラクション不足が響き、まさかの 15 番手という結果となった。



トップから 15 番手の ZENT CERUMO GR Supra までがわずか 0.742 秒差と、非常に激しい GT500 クラスの争いのなかで差はわずかだが、結果は残酷だ。今回のように、わずかでもクルマに問題があれば、わずかな差でも大きく響いてしまう。

しかし、予選は予選。決勝レースは翌日だ。激戦の SUPER GT では、わずか

























な気温の変化、コンディションの変化で戦力図が一変する。第6戦でみせたかのようなオーバーテイクをみせられれば、まだまだ上位進出の可能性はある。 TGR TEAM ZENT CERUMO は気持ちを切り替え、11月7日(日)の決勝レースに向けて準備を進めた。

ドライバー/立川祐路

「午前の公式練習からオーバーステアの傾向があり、リヤのグリップ感が足りない状況でした。それが完全に解決しきれないまま公式練習を終えることになってしまったので、公式予選でも石浦選



手のアタックラップに響いてしまったのかもしれません。ツインリンクもてぎはいつも僅差になりますし、少しのことがやはり影響してしまいます。悔しい結果になってしまいましたが、前戦は最後尾から追い上げることができたので、そういうレースができるように頑張っていきたいと思いますし

ドライバー/石浦宏明

「朝の公式練習の段階で、立川選手が走っているときから苦しそうな印象は受けていました。持ち込みの状況からクルマをどんどん変えていき、良くなってはいったのですが、少しトラクションが



足りない状況のまま公式練習を終えることになりました。そこからどうアジャストしていくかだったのですが、公式予選ではうしろからアタックしているライバルが来たりで、ウォームアップのペースが遅くなってしまったりで、セクター1 でロスがあったり、トラクションのかかり方が午前と変わらない印象でした。僅差のなかでなかなか Q1 突破は難しかったです。午前の予想よりも厳しい順位になってしまいました。課題は分かっているので、あとはどう上がっていけるのか、戦略等も含めてしっかり練って明日に臨みたいと思います」

村田淳一監督

「公式練習からドライバーが苦戦していて、ピットで少しずつ修正を行っていったのですが、それが響いてしまったのか、満足がいかない予選になってしまいました。第6戦オートポリスでの決勝から良いムードで来られていたので、

























少しつまづいてしまいましたが、僅差でもあります。もちろん悔しい気持ちも ありますが、決勝に向けてタイヤ選択もしっかりできていると思いますし、し っかりと良いレースラップを刻めるよう調整を施し、また追い上げるレースが できるようにしたいですね」





























公式予選結果

Rank	Car No.	CarName	Q2 Time	Q1 Time
1	19	WedsSport ADVAN GR Supra	1'35.893	1'36.933
2	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R	1'36.071	1'36.602
3	8	ARTA NSX-GT	1'36.162	1'36.750
4	12	CALSONIC IMPUL GT-R	1'36.524	1'36.868
5	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	1'36.556	1'36.918
6	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	1'36.612	1'37.025
7	23	MOTUL AUTECH GT-R	1'37.305	1'36.959
8	17	Astemo NSX-GT	1'37.484	1'36.602
9	14	ENEOS X PRIME GR Supra		1'37.068
10	1	STANLEY NSX-GT		1'37.101
11	64	Modulo NSX-GT		1'37.194
12	37	KeePer TOM'S GR Supra		1'37.254
13	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R		1'37.264
14	36	au TOM'S GR Supra		1'37.293
15	38	ZENT CERUMO GR Supra		1'37.344























